



自主防災組織による 地域防災力の 向上に向けて…

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの大規模地震が起こり、今後も東海地震や東南海、南海地震、さらに南関東直下型地震の切迫性が指摘されています。

過去の大震災で私たちは貴重な教訓を得ることができました。地域の防災力を高め、安全で安心な住みよい地域を築くうえでコミュニティづくりは極めて重要なことです。

防災に関して熱意ある皆さんと、町、消防などの連携、協力を一層高めるとともに、自主防災組織による防災力の向上が推進できるよう期待しています。

こんなとき…

あなたはどのように行動しますか？

真冬、北北西の風10m、湿度20%。異常乾燥注意報がでている午後5時、各家庭は夕食準備で火を使っている時間。震度6強の強い揺れの地震が発生した。住宅密集地の各所から火災が発生し、延焼の危険がある。そんな災害を想定したとき、
はたしてあなたの行動は…

災害の現実

阪神・淡路大震災では6、400人が亡くなりました。そのうち85%は建物の倒壊や家具の転倒による圧死や窒息死によるものでした。しかも、そのうち90%以上は地震発生から15分以内に亡くなっており、また、その半数以上は高齢者でした。災害時は、電話が不通になり防災関係機関への通報が困難なうえ、各地で同時に火災発生が考えられます。道路や橋が壊れ障害物により消火車や救急車両の通行が制約されます。水道管破裂で消火活動が困難になるなどの可能性も考えられます。

頼りになるのは 「近所の助け合い」

阪神・淡路大震災で生き埋めや建物などに閉じこめられた人のうち、救助された約95%は、自力または家族、隣人によって救助され、専門の救助隊に助けられたのは、わずか17%でした。現実には専門家による救助を受けることが難しく、被災者同士で何とかしなければならぬ状況です。

あなたの備えは大丈夫？

地震、集中豪雨などの自然災害から完全に逃れることは不可能で、その発生は予知しにくいものです。そのうえ近年は地震、台風、集中豪雨が頻発し、激甚化傾向が続いています。「災害はいつも違った顔でやってくる」と言われます。あなたは災害にどう備えていますか。

つまり、「公助」の前に「自助」「共助」が重要であること、住民自らの防災力向上が極めて大切なことを教訓として学びました。

災害からの教訓をいかす

災害時に、地域住民が相互に助け合い、人命救助や初期消火に努めることが被害軽減に大きな役割を果たします。阪神・淡路大震災を教訓に個人の日頃の災害に対する備えの重要性、あるいは地域での助け合いで多くの人が救助されたことを踏まえ、防災力を向上し実効性を高めるには、自治会の役割が大きくなります。これら大字単位の自主防災組織が重要な役割を果たすこととなります。

あなたがお住まいの 地域防災組織は？

芳賀町には13大字ごとに、自主防災組織があります。どんな活動をしているかご存じでしょうか？
大きな災害に遭った場合、発生から15分が生死を分けるタイムリミットと言われています。ライフラインが途絶え、

公的救助活動が機能しないとき「自分の身は自分で守る」という自衛精神（自助）が、住民一人ひとりの災害への備えとして重要になります。そして、自治会、自主防災組織による住民同士の相互扶助活動（共助）により、高齢者や障害者、乳幼児などの「災害時要援護者」をいち早く救助する体制づくりが大切になります。

自主防災組織の活動を 町が支援!!

町では、災害による被害を防止、軽減するため、実際に防災活動を行う各地域自主防災組織の育成と強化を重要施策と位置づけています。住みよい地域をつくらうとするコミュニティ活動の基本は、地域の連帯意識です。町では安全・安心の町づくりのため、より機能的で実効性のある防災組織の確立を支援しています。

総務課地域安全対策係

TEL 0288(677)6029

そのとき、あなたはどうする？
SOS SOS SOS

東高橋防災会が 防災訓練を実施

11月19日、東高橋集落センター付近を会場に、東高橋防災会（手塚貞男会長）主催の総合防災訓練が実施されました。このような自主防災組織による訓練は町では初めてで、地震や水害を想定し大字東高橋の住民約200人が一体となり防災活動を展開しました。

会場周辺道路を通行止めとする交通規制訓練や炊き出し訓練、避難誘導訓練に続き、給水訓練や初期消火訓練、消防団による中継放水訓練、食料配送訓練が次々に実施されました。

今回の防災訓練は、計画段階から大字内住民が中心となり、町および防災関係機関と協議を重ね、実践的な訓練が実施されました。住民の防災意識高揚と自主防災組織の機能向上に、とても意義ある訓練になりました。

